

ポスト2020年に向けたフォトニックネットワーク論文特集の発行にあたって

ポスト2020年に向けたフォトニックネットワーク論文特集編集委員会

委員長 長谷川 浩



今やFTTHは約3000万加入を数えるまでに成長し、社会は常時接続・大容量通信を当然のものとして受け入れている。一方、研究会が立ち上げられた15年前は、ADSLによる「ブロードバンド」インターネット接続が最盛期を迎えていた頃であり、更にその15年前はISDNサービスが開始された頃であった。技術の進歩と社会の変革はその渦中にあると気づきにくいものであるが、15年という期間を区切って振り返ってみれば、その間の変化がいかに大きいかを実感する。

本特集は、フォトニックネットワーク研究専門委員会がスタートして以来、その15年という節目の期間を経るにあたり企画された、特集の顔とも言える招待論文では、本分野に精通していない方にもわかりやすい、問口の広い論文をエキスパート2名の方に執筆頂いた。招待論文の1本目は塩本先生（東京都市大学）によるものであり、現在注目されている光伝送装置のオープン化と、その下地となるSDN・disaggregationの研究開発動向及び今後の展望を広くカバーする論文となっている。続く2本目の招待論文では、谷村様（富

士通研究所）に、次の15年の発展の鍵となるであろう、機械学習の光ファイバ通信への応用を解説して頂いている。一般投稿の論文についても査読及び編集委員会での議論を経て精選された、いずれも優れた内容となっている。是非ご一読頂きたい。

これまでの飛躍的な通信ネットワークの容量増加は、物理的な制約を超えて我々の「社会」を拡張してきた。次の15年間の過ぎた後で、どのような社会が実現されているのかを正確に描き出すことはできない。しかしすでにネットワークに深く依存している社会の未来は、ネットワーク自体の革新次第で決まることと思われる。本学会及び当フォトニックネットワーク研究専門委員会がその革新に貢献することを祈念しつつ、新たな研究者の参画をお待ちしている。

長谷川 浩^{ひろし}（正員） 平7東工大・工・電気電子卒、平9、12同大学院理工学研究科博士前期課程及び後期課程了。東工大助手を経て平17から名大大学院工学研究科准教授、現在に至る。フォトニックネットワークアーキテクチャ、ネットワーク最適化に関する研究に従事。博士（工学）。IEEE会員。

ポスト2020年に向けたフォトニックネットワーク論文特集編集委員会

委員長	長谷川 浩
幹事	鈴木 恵治郎・廣田 悠介
委員	大越 春喜・小西 毅・釣谷 剛宏・瀧田 裕丸田 章博・三澤 明・宮澤 高也・笠 史郎